

巻頭言

健康・栄養研究所長 山中 克己

今回、健康・栄養研究所年報の第2号を出版することが出来ました。昨年の創刊号に続いての発行であり、英文原著3編、和文総説1編、和文原著7編を数え、内容も生活習慣病としてのメタボリックシンドロームや糖尿病から栄養摂取状況やサプリメント、抗肥満病薬まで幅広い分野にわたっています。各教員が活躍している姿が感じとれます。また管理栄養学部以外にも短期大学部からも投稿があり、この年報は、当大学の教員はもとより、地域の皆様の発表の機会になればと思います。

特に今年は、4月1日に名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科に博士後期課程を開学することができました。栄養学を教える施設としての本校の原点をたどれば、60年前の1945年にすみれ洋裁学院に料理実習として、クッキング教室が出来た時点まで遡ることができます。この博士後期課程の開学は、教育機関としての集大成であると思っています。この課程では『栄養科学の実践を重んじ、先端的かつ同等レベルの教育研究を遂行できる栄養科学における高度な専門知識と技能を備えた栄養科学領域の研究者、並びに管理栄養士の指導者たる人材を育成する』と謳われ、博士課程終了認定者には博士（栄養科学）の学位が授与されます。教育に当たる教員は5名の教授と2名の准教授で構成されています。

学生の定員は、2名で出発いたしますが、2008年の入学者2名が決定しており、順調な滑りだしをすることができました。

今後、研究所員、大学教員、大学院生、学部学生がいろいろな場で、皆様方のお世話になるかと思いますが、よろしくご指導をお願いしたいと思います。

また、名古屋学芸大学管理栄養学部、および大学院栄養科学研究科を世界に通用する一流教育機関にすることも、この健康・栄養研究所に課せられた責務だと考えています。